

## 指定管理者評価表

様式1

## 1 基本情報

<b>(1) 公の施設の名称</b>	
堺自然ふれあいの森	
<b>(2) 施設の設置目的</b>	
里山の保全のために、農、散策、遊び、学習などの活動を通じて、里山と人との新しいかかわり方を考えるきっかけの場づくりのために設置	
<b>(3) 所管部局</b>	
建設局 公園緑地部 公園緑地整備課	
<b>(4) 指定管理者名</b>	
ふれあいの森パートナーズ (株式会社生態計画研究所、特定非営利活動法人いっちゃんクラブ)	
<b>(5) 指定期間</b>	
平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5年間)	
<b>(6) 主な事業</b>	
里山保全や環境教育・啓発の取組みとして、自然観察・農作業体験・クラフト教室などの自然体験プログラムや里山ボランティア養成講座等の様々なプログラムを市民協働で実施するとともに、建築設備の維持管理や園内の安全管理などの施設管理を行っている。	
<b>(7) 有料施設の有無</b>	
無	
<b>(8) 公募・非公募の別</b>	
公募	
<b>(9) 主な利用者</b>	<b>(10) 市内における受益対象者数</b>
乳園児・小学生から高齢者まで全般	不特定多数
<b>(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標</b>	
無	

## 2 管理運営状況

## (1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

里山の生態系に配慮した順応的管理手法による里山管理をはじめとする、ふれあいの森の保全及び利用を目的とした園内管理について、毎月1回運営会議を開催(市民ボランティア・大阪府立大学・指定管理者・堺市で構成)し、管理運営に反映させている。

## (2) 利用者サービス

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
指定管理者名	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ
ア 利用者数 (人)	33,025	35,162	33,622	31,617	
利用者数の算出方法	園内にある橋に設置しているカウンターの数値を利用して、利用者数(来園者数)を算出している。				
市による状況分析	平成28年から利用者数が減少しているが、目標値である3万人を超えており、安定的な利用者数を維持している。また、平成30年度については、9月に発生した台風の影響が考えられる。				
イ 稼働率 (%)	-	-	-	-	
稼働率の算出方法	-				
市による状況分析	-				
ウ 利用者満足度 (%)	98	98	98	97	
利用者満足度の測定方法	イベントアンケートにて測定 アンケート回収枚数：H27(992枚)、H28(884枚)、H29(1036枚)、H30(930枚)				
市による状況分析	高水準を維持しており、満足度の高いサービスを提供している。				

## (3) 管理体制等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ア 職員数(人) ※各年度4月現在	常勤4名 非常勤1名	常勤4名 非常勤1名	常勤5名 非常勤1名	常勤5名 非常勤1名	常勤4名 非常勤1名
イ 職員研修(回) ※令和元年度は予定回数	15	18	17	13	12
ウ 要望、苦情等(件)	24	17	17	13	-
エ 事件、事故等(件)	3	2	0	1	-
市による状況分析	施設運営に必要な適正な人員が配置され、自衛消防研修、人権研修等が適切に実施されており、ふれあいの森の管理運営に必要な専門知識及びサービス向上の知識の習得が行われている。				

## (4)収支状況(単位:円)

## ■指定管理業務

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	指定管理料	32,800,000	32,800,000	32,800,000	32,800,000	35,300,000
	利用料金	6,480	0	0	0	1,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	1,453,005	1,111,344	822,706	1,069,839	632,000
合 計		34,259,485	33,911,344	33,622,706	33,869,839	35,933,000
イ 支出	人件費	22,688,000	22,688,000	22,688,000	22,688,000	22,088,000
	委託料 ( )内は総支出額 に占める委託料の割合	1,615,412 (4.8%)	1,991,252 (5.9%)	1,835,735 (5.5%)	1,692,956 (5.0%)	2,350,000 (6.5%)
	修繕費	330,403	506,628	704,883	155,131	2,000,000
	光熱水費	1,776,487	1,884,978	2,212,210	1,997,526	2,156,000
	その他経費	7,425,927	6,695,740	5,790,611	7,138,508	7,330,000
	合 計	33,836,229	33,766,598	33,231,439	33,672,121	35,924,000
利用者一人当たりの支出額		1,025	960	988	1,065	—

ウ 収支差額	423,256	144,746	391,267	197,718	9,000
--------	---------	---------	---------	---------	-------

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
------------	---	---	---	---	---

オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—
-------------------	---	---	---	---	---

市による状況分析	スタッフ自らによる教材の作成や、節電、節水、間伐材の利用等、身近な部分においても経費の削減につながる管理運営を行っており、安定的な収支状況を維持している。
----------	---

## ■自主事業 (有)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	537,500	708,376	780,610	669,950	652,000
イ 支出	252,731	356,636	428,828	365,987	444,500
ウ 収支差額	284,769	351,740	351,782	303,963	207,500
エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
オ 事業数(回)	105	110	144	157	
カ 参加者数(人)	1,964	2,838	2,624	2,841	

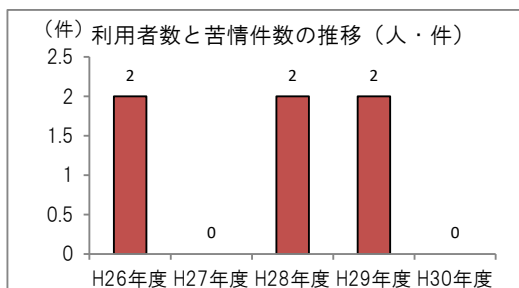
主な自主事業	農作物の収穫体験や小学生～高校生対象の年間登録制自然体験企画、未就学児とその保護者対象の自然体験企画等
--------	---

市による状況分析	安定的な財政及び参加者数を維持しており、施設の利用促進及びサービス向上を考慮した自主事業となっている。
----------	---

### 3 目標管理、評価等

#### (1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	苦情発生件数有責事故発生件数	(設定理由) 里山の自然環境に配慮しつつ、利用者の安全を確保するため。
	目標	苦情及び有責事故発生件数10件以下	(設定理由) 苦情件数及び有責事故発生件数は最低限に抑える。
	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情発生件数 0件</li> <li>・ 有責事故発生件数 0件</li> </ul>	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 苦情及び有責事故の発生件数は0件であった。



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	開園時、閉園時に園内巡回を行い、危険個所の解消や予防ならびに、職員間での情報共有を行っている。また、危険生物による被害防止のために施設利用者に対して注意喚起などを行っている。
---------------------------------------	---

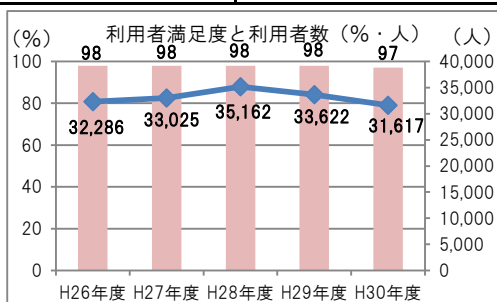
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	一般利用者、イベント参加者に対して適宜アンケート調査を実施しており、利用者からの要望、苦情等の把握を行った上で、対応できる内容については適切に対応している。
-----------------------	--

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価
	評価	B	B
	具体的な理由	苦情および有責事故の発生件数は0件であった。	苦情及び有責事故の発生件数が0件となり、利用者の安全確保に向けた適正な管理運営が行われている。
対応策等	苦情および有責事故については、引き続き発生件数0件を目標とするため、職員間での情報共有や安全管理を徹底する。	事故の発生原因を予測し対策する等、事前の危機管理が重要である。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

<b>目標管理</b>	評価の指標	利用者満足度 利用者数	(設定理由) 広く利用者の拡大を図り、イベント参加等に対する利用者の評価。
	目標	利用者満足度 90%以上 年間利用者数 3万人以上	(設定理由) 利用者の拡大を図るとともに、多様なプログラムの実施し、高い利用者満足度を得る。
	実績	利用者満足度 97% 年間利用者数 31,617人	(分析) 高い水準を維持している。 ※目標未達成時は詳細な原因分析 また、利用者数も目標値である3万人以上となり達成した。



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	堺市の小学校3年生の校外学習の目的「堺市の環境を知る」「自然に親しむ」に合わせたプログラムを作成し、環境教育プログラムに反映させている。また、教科教育内容に合わせた教員向けプログラムを充実させている。
--	--

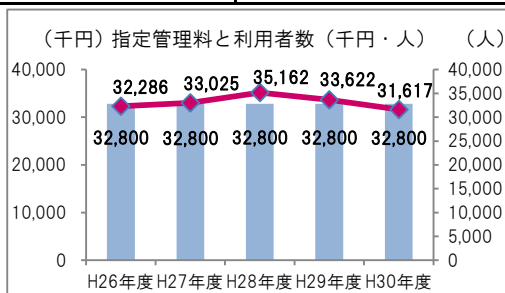
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	一般利用者、イベント参加者に対して適宜アンケート調査を実施しており、利用者からの要望、苦情等の把握を行った上で、対応できる内容については適切に対応している。
-----------------------	--

<b>評価等</b>	指定管理者の自己評価	市の評価	
	評価	B	B
	具体的な理由	高い満足度が得られた。しかし一部のイベントにおいては、キャンセル待ちが発生することがあり、需要にこたえきれていない部分がある。また、利用者数も目標値である3万人以上となり達成した。ただ、平成30年9月に発生した台風被害により、一定期間の閉園や園路の一部閉鎖措置を行った結果、利用者数は昨年を下回った。	高い水準を維持しており、満足度の高いサービスを提供できていることから、施設の趣旨を十分に利用者へ伝えることができている。 利用者数は9月に発生した台風の影響により昨年度に対し減少したが、目標である3万人は達成している。近年実施している小学校の教員向け研修会に加え、平成30年度には幼保の教員向け研修会を実施し、小学校や幼保などの教育施設の受入れを積極的に行っている。小学校の受入れについては、昨年よりも4校増加した35校の受入れを行った。
対応策等	新たなセルフガイド教材の開発やカウンターや園内での来館者対応の充実化を図り、イベントに参加しなくても森を楽しむ提案を行う。	キャンセル待ちの推移などプログラムごとの利用者数の傾向を把握し、プログラムの実施計画を検討するとともに、イベントに参加しなくても施設の趣旨が理解できりようなセルフガイド教材の充実を図る必要がある。 利用者数については、台風の影響もあったが減少している中で、より多くの人の施設利用促進のための普及啓発を行うとともに、閑散期である冬季のプログラムの検討などを行うことも必要である。	

<b>評価基準</b>	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	指定管理料	(設定理由) 指定管理料の適正な執行を行うため。
	目標	年間32,800千円以下	(設定理由) 同上
	実績	年間の管理運営に要した費用は33,672千円で、指定管理料32,800千円と利用料金等収入を合わせた計33,869千円の範囲内で運営した。	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 安定的な収支状況を維持している。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	指定管理料の計画的な予算執行が確認できた。また、経理事務は適切に処理されていた。
------------------------------------	--

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特に無し
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	B	B
	具体的な理由	目標数値は達成したが、近い将来消費税率が上昇し、建物・設備等の老朽化に伴う修繕費の経費などが増えてくることから、来園者の満足度を維持したまま、引き続き経費の削減に取り組む必要がある。	歳入の範囲内で執行が確認でき、経営的に安定した運営を行っている。	
対応策等	消費増税や施設の老朽化に伴う修繕費の増大に対応するため、3R (リデュース、リユース、リサイクル) できるものは積極的に実施するとともに、作業の内製化を図り、経費削減に努める。	老朽化に伴う建物や施設等の修繕費の増大に備え、計画的な予算執行と効率的な運営を行う必要がある。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの